

風水害に備えましょう

夏から秋にかけて、台風や豪雨による風水害が起こりやすくなります。特に8月、9月は台風が頻繁に上陸する傾向があるため注意が必要です。

土砂災害や洪水による被害から逃れるためには、災害が起こる前に危険な場所から避難することが大切です。災害が深刻化する前に、避難情報や気象情報などを確認し判断しましょう。

避難情報（警戒レベル）

避難情報（警戒レベル）とは、気象状況等の変動により気象庁や市町村から発表される情報のことです。

地域や家庭の状況に応じて、取るべき避難行動が異なります。普段から避難行動や避難のタイミングを決めておきましょう。

警戒レベル1 早期注意情報	早期注意情報（警戒レベル1） 災害発生の危険性は低い段階ですが、気象情報などを確認し、災害の心構えを高めておきましょう。
警戒レベル2 大雨注意報など	大雨注意報など（警戒レベル2） 災害発生に対する注意が高まってきた段階です。災害の危険性がある区域や避難経路・避難のタイミングなどについて再確認しておきましょう。
警戒レベル3 高齢者等避難	高齢者等避難（警戒レベル3） 「高齢者等避難」は、市町村から発表される情報です。 避難に時間のかかる方（高齢者、妊婦など）は避難を開始してください。 それ以外の方も避難の準備をしておきましょう。
警戒レベル4 避難指示	避難指示（警戒レベル4） 「避難指示」も、市町村から発表される情報です。災害発生の危険が高まっているため、 危険な場所から全員避難してください。
警戒レベル5 緊急安全確保	緊急安全確保（警戒レベル5） 災害発生直前もしくはすでに災害が発生している段階であり、必ず発令されるとは限りません。この情報の発令に該当する場合には、 今いる場所で身の安全の確保をしてください。

避難所利用の注意点

避難情報（警戒レベル）に応じて、市内の避難所を開設します。避難所は複数の人が集まる場所であり、備蓄などにも限りがあります。ここでは、避難所を使用する上での心構えや注意点についてお伝えします。

①車での避難は避け、原則徒歩で避難しましょう

災害時の車での移動は危険が伴います。また、一斉に車が集まると渋滞が起き、交通が麻痺してしまいます。日頃から車以外の避難方法を考えておきましょう。



②食料や毛布などは各自で持参しましょう

各避難所には必要最低限の備蓄をしていますが、全員分の提供ができないことも考えられます。避難所へ向かう際は、食料・毛布などを必ず持参しましょう。



③在宅避難も視野に入れましょう

避難所では、多くの人が殺到することが想定されます。自宅が災害のリスクがない場合には自宅で避難生活を送る「在宅避難」となることも考えられます。また、状況に応じて親戚や知人の家への避難なども検討してみましょう。



④避難所の情報は市のホームページで確認しよう

市ホームページで指定避難所の情報を掲載しています。また、避難所を開設した際には空き情報等も公開していますので、必要に応じて確認しましょう。



ペリー艦隊が来た！

ペリー艦隊が日本に来た主な目的は国交を結ぶための条約交渉でしたが、同時に日本で見つけた数多くの動植物を記録、採集し、世界に報告することで自然科学の分野でも大きな功績を残しました。

遠征記の挿絵画家として知られるハイネは、標本採集のため下田の山中に入り、親子連れのキジを見つけますが、その美しさに思わず目的を忘れてしばらく見入ってしまったと記述しており、後で精細なスケッチを描いています。また、下田沖の神子元島が営業地のカムリウミスズメという小さな海鳥は、現在では国の天然記念物に指定されその数は減少していますが、この頃は下田港近辺でも普通に見られたようで、同じくハイネが標本として2羽採集したという記録が残っています。

日本で「発見」された動植物

近代の生物学では、生き物に学名（生物に与えられる世界共通の呼び名のこと）を付けて初めて新種として認められますが、幕末の日本で発見された多くの動植物も、新種として学名が付けられました。春から初夏に白い花を咲かせるシロバナハンショウヅルという植物は、ペリー艦隊によって下田で採集されたことから学名に「ペリー」の名が付いているほか、幻の魚といわれる北海道のイトウには、通訳であった「ウィリアムズ」の名が付けられています。

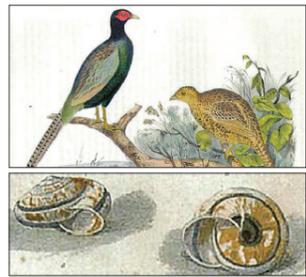
また、後に来航したロシアのプチャーチン艦隊通訳で、初代駐日ロシア領事にもなったゴシケビッチと妻エリザは、日本の昆虫を多く採集し、春によく見られるサトキマダラヒカゲという小さな蝶の学名には彼の名前が残っています。

「シモダマイマイ」って何？

下田駅から市街地へ向かう「マイマイ通り」や、文化会館の愛称「マイマイホール」など、市内では「マイマイ」という語をよく見ます。

「マイマイ」とはカタツムリの別称ですが、これはペリー艦隊が下田で採集したことから名付けられた「シモダマイマイ」に由来しています。現在はミスジマイマイというカタツムリの仲間として分類されることが多いですが、下田にゆかりのある生き物として特筆すべきものです。

身近な動植物にも様々な歴史があります。皆さんも「マイマイ」のようにのんびりと下田の自然を観察してみたいかがでしょうか。



キジ（上）シモダマイマイ（下）
『ペリー艦隊遠征記』所載

問合せ先
企画課政策推進係
☎22212

下田開港 170 周年記念事業

渋沢栄一翁と下田

（新一万円札発行記念）

新一万円札に近代日本経済の父と称される渋沢栄一の肖像画がデザインされます。

渋沢栄一は日本最初の米国総領事館となった玉泉寺本堂修繕やハリス記念碑建立に尽力されました。下田開港 170 周年記念事業として、渋沢栄一の記念式典と講演会を実施します。

日時：6月30日（日）

記念式典 9時～9時30分 講演会 9時40分～12時15分 ※終了後に玉泉寺による餅まき実施

①「渋沢栄一子爵と下田」 (参加自由)

講師：村上 文樹 氏（玉泉寺東堂）

②「小栗上野介と渋沢栄一が目指したもの」

講師：村上 泰賢 氏（小栗上野介研究の第一人者）



講演会参加申込
QRコード

場所：玉泉寺（住所：下田市柿崎31-6 ☎221287）

申込方法：講演会は要予約（先着80名）です。上記のQRコード又は下記電話番号からお申込みください。

主催：下田市・下田開港170周年記念実行委員会 共催：宗教法人 玉泉寺 後援：下田市教育委員会・柿崎区

問合せ先：企画課政策推進係（河内庁舎2階）☎22212